

LEXUS TEAM KeePer TOM'S

TOM'S

KeepPer
COATING FOR SMART CAR LIFE

2018 スーパーGT 第2戦
富士スピードウェイ
2018年5月3日(木)、4日(金)

予選

来場者: 31,300人

天候: 曇り時々晴れ

2018年のスーパーGT シリーズ第2戦は富士スピードウェイが舞台。早朝まで降っていた雨が止んだ後、濃い霧がサーキットを包んでしまい、走行スケジュールが大幅に変更になった。30分間に短縮された練習走行の後にワンセッションの予選アタックが行われた。平川 亮が予選を担当して9番手タイムをマーク。22kgのウエイトハンデを背負った1号車は、5列目のグリッドから決勝をスタートする。



- 練習走行では5番手タイムをマーク、予選に向けてタイムアップの期待がかかった。
- 予選では、1セット目のタイヤでコンディションを確認した後にピットイン。2セット目を装着して再びコースインした。
- 早めのアタックを試みたが他車にひっかかりそうだったので、アタックをやめて次の周に再びアタックをかけたが、タイヤのピークグリップは過ぎてしまっていた。

DRIVER	Car No.	POSITION	TIME
平川 亮	1	P9	1:18.796
ニック・キャシディ			

天候	曇り時々晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 21-22度C	路面温度: 34-35度C

平川 亮 (1号車ドライバー)



「クルマは、全く問題はないですね。1セット目でチェックして、肩慣らし。他のチームよりも早めにコースインしたのですが、そのタイミングが良くなかった。完全に前車にひっかかったわけではなかったのですが、再度アタックをかけた時には、タイヤのピークグリップはもう無かった。それ以外、特に問題はないので、開幕戦と同じように追いつきたいですね」

ニック・キャシディ (1号車ドライバー)



「今日は、全くドライブしていないのでマシンの状況をコメントすることはできないけれど、問題は無いようだ。岡山と同じ9番手からのスタートだから、追いつければ、また表彰台は獲得できるかな(笑)。できれば、再び3位ではなく、もっと上でゴールしたい」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)



「走行時間が短い中で、予選に向けてセットアップをしたけれど、この状況の中で最良かどうかは掴めきれいていないですね。亮によれば、特に問題は無いとのこと。コースインさせるタイミングを誤ってしまったようですね。それによって0.7秒くらいトップから遅れてしまっていますが、明日の決勝レース前のわずかなフリー走行で、なんとかセットアップして上位を狙います」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)



「コースインするタイミング、それが全てだったかな。しかし、トップのマシンからタイム的にかなり差があることが少し気がりではある。ドライバーからのフィードバックをもとに明日のフリー走行で決勝を上位で戦えるマシンに仕上げなくてはならない」

舘 信秀 (総監督)



「スケジュールが混乱する中でチーム、ドライバーが頑張ってくれたとはいえ、満足のできる予選結果ではなかった。奇しくも初戦の岡山と同じ9番手グリッドからのスタート。ということは、再び追いつけをお見せできるかなと、期待している」

LEXUS TEAM KeePer TOM'S

決勝

来場者: 55,000 人 天候: 晴れ時々曇り

快晴の天候に恵まれた決勝日。KeePer TOM'S チームのカーナンバー1 は、中団グループの中で 500 キロ、110 周のレースをスタート。序盤から周りのマシンを抜いて順位アップを試みたが、混戦の中では思うような展開には持ち込めずいた。レース中盤、1 回目のピットイン後に一時 4 位までアップ。最終的には、7 位でレースを終えた。



- 今回の 500 キロレースは、2 回のピットストップが義務づけられた。
- 平川がスタートドライバーを務め、36 周目にピットインしてキャンディに交代。
- キャンディは、タイヤのウォームアップが終わると 5 周の間に 2 台をパスすることに成功して 6 位へ。ステイントの終盤では、前車がピットインするタイミングで一時 4 位まで順位をアップ、39 周して平川にバトンタッチした。
- 平川は、コースに戻った時点で 6 位。終盤までその順位を守って周回を重ねていたが、3 周を残した時点で追いつけてきた GT-R にパスされてしまい決勝レースを 7 位でフィニッシュした。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
平川 亮	1	P7	1:30.830
ニック・キャンディ			1:31.294

天候	晴れ時々曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温: 18-17度C	路面温度: 36-23度C



平川 亮 (1号車ドライバー)

「スタート直後は、周りに NSX がいて、思うようなペースで走ることができませんでした。LEXUS と速さを発揮できるセクションが違って、苦しい展開でした。2 回目のステイントでは、単独で走行することもできて、トップグループと遜色ないラップタイムを刻むことができました。しかし、最後の最後で追いつけてきた GT-R の勢いがすごくて一つ順位を下げてしまいました」

ニック・キャンディ (1号車ドライバー)

「前を行くマシンをパスすることに集中して、コースインしてからすぐに 100 号車と 8 号車(共に NSX)を抜くことができました。GT300 クラスのマシンをパスしつつ、第 2 ステイントでは、最速の LC500 であったと思う。開幕戦のように追いつけなかったことが残念だけれども、次戦の鈴鹿でも充分チャンスはあると思う」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)

「スタート直後から亮の担当した第 1 ステイントは、思うようにペースアップすることができずに苦労しましたね。ニックのステイントは、コースインしたときの場所もよかったので、直ぐに順位アップしてくれました。終盤に順位を落としてしまいましたが、今回は、予選日に十分な走行もできず、セットアップが不十分であったことが結果に出てしまいました。次戦の鈴鹿では事前テストも行っていますので、より良い結果を目指したいと思います」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)

「どうもうまく行かない。単独走行だとトップグループと変わらない速さを示せても、集団の中だと攻めあぐねて本来のペースを示すことができなかった。ニックがあれだけ素晴らしい走りができているので、マシンのには問題はないと思われる。シーズンはまだ始まったばかり。次戦から巻き返しをしたい」

館 信秀 (総監督)

「開幕戦と同じ 9 番手からのスタートだったので、再び表彰台へ、という期待をかけていたが、そうは甘くはなかった。それだけ、このスーパーGT というシリーズがハイレベルな闘いが演じられているということなのでしょう。しかし、われわれの目標は、連覇。それに向けて全力を尽くすのみ」

※次戦は、5 月 19-20 日に三重県の鈴鹿サーキットにてシリーズ第 3 戦が開催されます。